

平成 28 年度（第 7 期）事業報告

自 平成 28 年 4 月 1 日

至 平成 29 年 3 月 31 日

目 次

1. 株式会社の現況に関する事項	
(1) 事業の経過及びその成果	1
(2) 取り組んだ主な事業	1
(3) 対処すべき課題と今後の方向性	5
(4) 資金調達等の状況	5
(5) 設備投資の状況	5
(6) 主要な事業内容	5
(7) 主要な営業所	5
(8) 使用人の状況	6
2. 株式に関する事項	6
3. 役員に関する事項	6

1 株式会社の現況に関する事項

(1) 事業の経過及びその成果

当事業年度における経営環境は、雇用・所得環境の改善が続く中で緩やかな回復基調にあるものの、米国の新政権誕生による経済政策の転換や北朝鮮をめぐる軍事的緊張の高まりなどにより、景気の先行きについては不透明な状態で推移しました。

道内経済においても、インバウンド需要や北海道新幹線開業に伴う観光を中心とした業種が引き続き好調なことに加え、公共投資が増加していることもあり緩やかに回復しておりますが、消費税増税に対する先行き不安や長期的な人口減少を背景とする需要減少の懸念などもあり、今後の経済動向を注視する必要があります。

このような状況の中、当社は、平成23年3月に開通した札幌駅前通地下歩行空間（チ・カ・ホ）の「地下広場」ならびに、平成26年7月に開業した地上の「札幌市北3条広場（アカプラ）」の指定管理者として、その管理・活用を行って参りました。

当事業年度においても、これまで培ったノウハウを最大限に活かし、地上・地下一体となった広場の利活用による賑わいの創出と都心の回遊性の向上に努めてきたところです。

「チ・カ・ホ」においては、広場の貸出度合を示す稼働率は平均で約95%に上り、前年度同様、高い稼働率を維持することが出来ました。

また、「アカプラ」については、道外からの利用問い合わせも増え、市民に親しまれている「道庁赤れんが庁舎」や「イチョウ並木」といった景観に配慮しつつ、市民や企業、行政の方々と共に、北海道の食や観光の促進、アートイベントやセールスプロモーションなど多数の催しを行い、都心部の貴重な広場としての活用を図って参りました。

これらのことから、当社の行った事業が、都心を訪れる市民や観光客の増加や大通地区と札幌駅前地区をはじめとする都心全体の回遊性の向上などに寄与しているものと考えているところです。

その結果、今期の事業収益については、前述した高い広場稼働率と、安定した壁面広告事業により、純利益は13,518千円となり、6期連続の黒字となりました。

(2) 取り組んだ主な事業

① 関係各所との連携による「まちづくり」の取り組み

・賑わいの創出

地域の賑わいや活性化等を目的に企業や町内会、行政等から構成されるまちづくり実行組織の「札幌駅前通地区活性化委員会」と連携して、特色あるイベントを実施するなどして地域のブランド力UPに努めました。

(SAPPORO FLOWER CARPET 2016、札幌駅南口広場「エキヒロ Cafe」、会社対抗のど自慢大会、さっぽろ八月祭 2016、アカプライルミネーション 2016-2017、さっぽろユキテラス 2017 など)

また、古くから地域のコミュニティ組織として活動している「札幌駅前通振興会」と協働で、「冬のまち歩きを楽しく」をコンセプトに、装飾したツリーを札幌駅前通沿道のビルや店舗の軒先などに飾り、クリスマスや季節の雰囲気を広げておもてなしをする「Happy Tree Street」を展開しました。

・環境美化

札幌駅前通振興会や町内会・近隣企業等と連携し、札幌駅前通の清掃活動（ツキイチ・クリーン）等を行いました。また札幌駅前通の放置自転車対策を兼ねた「フラワープランター」を設置しました。

・安心安全なまちづくり

平成 27 年 3 月に設立した「札幌駅前通地区防災協議会」の事務局として、会員企業向けに防災に関する研修会の実施や、チ・カ・ホの防災センターと接続ビルの防災センターを結ぶインターフォン（防災情報伝達システム）の設置に関する業務を実施しました。

また、札幌中心部の公的な施設におけるいわゆる「ホームレス」の方々の滞在状況等について、施設管理者ならびに支援団体間で情報共有を行い、その後の支援につなげるため平成 29 年 2 月に設立した「札幌中心部ホームレス対策施設連絡会」の事務局として、チ・カ・ホを含む各施設と支援団体との連絡・調整業務を行いました。

② 指定管理業務（「チ・カ・ホ」、「アカプラ」）を中心とする取り組み

札幌市および関係機関と広場の運営・管理についての協議を行いながら、以下の事業を行い、都心の賑わいの創出等に努めました。

●札幌駅前通地下広場「チ・カ・ホ」

○活用内容

- ・「都心の回遊性、活性化」の促進

チカチカ☆パフォーマンススポットの実施、kurache（クラシェ）の開催、チ・カ・ホ音楽ライブ（クラシック、ジャズ等）の開催、

「チ・カ・ホ詳細 MAP」の制作・発行

- ・「都心ビジネスパーソンへの快適な日常」の提供

休憩スペースの充実化、「Sapporo City Wi-Fi」の運用

- ・「さっぽろ・北海道の魅力発信」の推進

道内観光・魅力発信 PR 展の実施（北海道新幹線開業記念イベントなど）、北海道イベントインフォメーションボードの設置・運用

- ・「季節等のイベント」の実施・協力
札幌デザインウィーク、さっぽろ菊まつり、さっぽろアートステージ、チ・カ・ホのお正月、さっぽろ雪めぐり回廊など

○広場の貸出業務

- 「交差点広場」や「憩いの空間」の貸出促進及び活用支援、
情報提供機能の充実（ホームページでのイベント情報の掲出）

○環境等の配慮

- 案内所の設置（ビッグイシューさっぽろとの連携）、植栽の設置、
周囲のデザインと調和した“デザインテーブル”（販売什器）の制作・貸出

○運営・管理について

- 「チ・カ・ホ」に適した展示・出店デザイン、ルール等の検討・指導、
札幌駅前通地下広場運営協議会の開催

●札幌市北3条広場「アカブラ」

「道庁赤れんが庁舎」や「イチョウ並木」の景観に配慮し、地域資源を活用した文化の発信など、地上の賑わいの拠点としての活用を図りました。

- ・「アカブラ利用の手引き」の更新
- ・「SAPPORO FLOWER CARPET 2016」の開催（主催者事務局）
- ・「さっぽろ八月祭 2016」の開催（主催者事務局）
- ・「アカプライルミネーション 2016-2017」の実施（主催者事務局）
- ・「赤れんが×アカプライルミネーション 2017」の実施（主催者事務局）
- ・「さっぽろユキテラス 2017」の開催（主催者事務局） など
- ・札幌市北3条広場運営協議会の開催

③ エリアマネジメントの基盤を固める取組み

・エリアマネジメント広告

チ・カ・ホの壁面を活用して企業等の広告を掲出し、賑わい創出に努めました。

広告稼働率：短期枠（1週間単位）… 実績 93%（目標 85%）

長期枠（3ヶ月単位）… 実績 100%（目標 92%）

（平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日）

・札幌駅前通まちづくりカフェの開催

札幌駅前通のまちづくりの推進に向けて、その関心の醸成及び課題、方向性の共有とまちづくりのコミュニティづくりを目的に、緩やかに話し合う場として「札幌駅前通まちづくりカフェ」を開催しました。

地権者だけでなく、テナントとして入居している企業の従業員にもご参加いただいて、平日の夜を中心に全 5 回、講演やワークショップを実施しました。

・ エリアマネジメントのあり方や広場の活用についての他都市との交流・研究

全国各地でエリアマネジメントを実践している団体が連携してその取り組みを推進するために共同で設立した「全国エリアマネジメントネットワーク」の幹事社として、他都市との緊密な情報交換や課題を解決する方法の検討、先進事例の研究など、当地区の地域価値向上のための諸活動を推進しました。

・ 将来を見据えた指定管理以外の事業の検討

都心部に多様な人材や情報、資金を惹きつけ、エリアの空間や機能、活動が新規創業や既存ビジネスの活性化を支えるためには、「エリアの価値」を高めている戦略的な取り組みが必要とされます。

そのために当社は「世話役・つなぎ役」としての役割を担い、これまでの公共空間の管理に加え、民間と公共をつなぐ領域づくりのために、コーディネート業務を行い、戦略的なエリアマネジメントを実践していくための仕組みづくりを引き続き検討しました。

④ 地域資源を活用した文化の発信等の取組み

・ 公共空間のあり方を考えるアート展示とワークショップの開催

主催事業として、Public Art Research Center [PARC]、北から暮しの工芸祭などを開催しました。

・ 「全市的な季節のイベント」等の実施・協力

札幌デザインウィーク、さっぽろ菊まつり、さっぽろアートステージ、さっぽろ雪めぐり回廊などへの協力・支援を行いました。

・ 「テラス計画」の活用促進

札幌三井 JP ビルディング内にある眺望ギャラリー「テラス計画」において、アート作品の展示のほかにも様々なワークショップなどを開催し、多くのアーティスト、デザイナー、学生、ビジネスパーソンの参画により、眺望のみならず、人々が自由に交流し、札幌らしい生活・芸術文化の計画、提案が行われる『創造の場』として活用しました。

⑤ 人材育成事業

近年、アートを用いたまちづくりや地域振興が活発化している中、その担い手不足が指摘されており、当社の主催事業として「アートマネジメント／まちづくり」をゼロから学べる入門講座「Think School (シンクスクール)」を開校しました。

第一線で活躍している 30 名以上の講師を招聘し、初年度は 21 名が受講、1 年

間の講義修了時には受講生による卒業企画展を開催しました。

(3) 対処すべき課題と今後の方向性

当社が目的とする「都心の賑わいづくり」、「文化の香りがする都心づくり」、「市民協働の推進」、「駅前通地区・札幌・北海道の魅力発信」を行うためには、「チ・カ・ホ」ばかりではなく、地上部の賑わいの創出や駐輪対策など、「まちづくり」全般に関して地上・地下一体となった対応が求められます。

このような観点から、「チ・カ・ホ」及び「アカプラ」の有効活用を図るとともに、地域全体のまちづくり課題を見据えて、地域の関係者から構成される「札幌駅前通振興会」等との連携を深め、目的の達成につながる地域イベントの実施や環境美化、安心安全なまちづくり活動に努めたいと考えています。

また、現在建て替えが進んでいる駅前通地区の今後のまちづくりの方向性や、都市計画のあり方についても引き続き検討し、より魅力あふれるエリアづくりに取り組んでまいります。

当該事業の実施に際しては、会社の適切な運営、収益の安定化が求められることから、引き続き費用の省力化、業務効率の向上などに努めてまいりたいと考えています。

(4) 資金調達等の状況

該当事項はありません。

(5) 設備投資の状況

当期は、アカプラでのイルミネーションを実施するため、その機材など合計 3,240 千円の設備投資を行いました。

(6) 主要な事業内容

- ・札幌駅前通地区でのまちづくり活動及び札幌都心部他地区におけるまちづくり活動との連携調整に関する業務
- ・札幌駅前通地下歩行空間（地下広場）および札幌市北 3 条広場の管理運営の受託に関する業務
- ・地域の活性化を図るための事業企画、立案、コンサルティングおよびその受託に関する業務

(7) 主要な営業所

本社 札幌市中央区北 3 条西 3 丁目 1 番地 札幌駅前藤井ビル 8F

(8) 使用人の状況

平成 29 年 3 月 31 日 現在

使用人（正職員）	平均年齢	平均勤続年数
9 人	40.2 歳	5 年 3 ヶ月

2 株式に関する事項

- (1) 発行可能株式数 1,000 株
- (2) 発行済株式の総数 198 株
- (3) 当事業年度末の株主数 17 名

3. 役員に関する事項

平成 29 年 3 月 31 日 現在

役職名	氏名	他の法人等の代表状況
代表取締役会長	中村 達也	株式会社敷島屋 代表取締役社長
代表取締役社長	白鳥 健志	(常勤)
取締役	柴田 隆行	株式会社伊藤組 代表取締役副社長
取締役	石塚 雅明	株式会社石塚計画デザイン事務所 代表取締役
取締役	越山 友直	有限会社越山ビルディングズ 代表取締役会長
取締役	石水 創	石屋製菓株式会社 代表取締役社長
監査役	郷 雄司	株式会社北洋銀行 公務金融部長
監査役	沼田 和之	株式会社北海道銀行 地域振興公務部長

注) 1 (代表取締役会長) 中村達也氏、(取締役) 柴田隆行氏、石塚雅明氏、越山友直氏、石水創氏は、会社法第 2 条第 15 号に定める社外取締役です。

2 (監査役) 郷雄司氏、沼田和之氏は、会社法第 2 条第 16 号に定める社外監査役です。